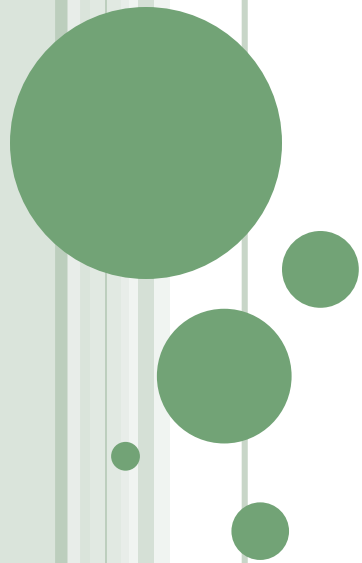


国民党と中国共産党



・国民党の歴史

- 中国国民党は1919年10月10日に孫文が中華革命党を改組して結党した。
- 第一次世界大戦後のパリ講和会議によってドイツから山東省権益が日本に譲渡されたのを受けて、中国全土で「反日愛国運動」が盛り上がった。この運動以降、中国の青年達に共産主義思想への共感が拡大していく。この反日愛国運動は、孫文にも影響を与え、「連ソ容共・労農扶助」と方針を転換した。しかし1921年に中国共産党が結成されると反共主義をとった。
- 1945年まで続いた日中戦争の後、国共内戦が再開するが、それに敗北して台湾島へと逃れ現在に至る。



中国共産党の歴史

- 1921年7月に、コミンテルンの主導により、中国各地で結成していた共産主義組織を糾合する形で、上海にて中国共産党第1次全国代表大会(第1回党大会)を開催、結成されたとされる。
- 日中戦争中は第二次国共合作を成立させて日本軍と戦ったが、主力は国民党であった。
- 日中戦争が終わると国共内戦に突入したが、ソ連の援助を受けてこれに勝利し、1949年10月1日には中華人民共和国の建国を宣言した。



国民党と中国共産党の関係

- 1924~27年までは24年に成立した第一次国共合作によって比較的良好な関係を保っていたが、上海クーデター(蒋介石の指示により、上海で中国共産党を弾圧した事件)によって一気に悪化した。
- 蒋介石は抗日より反共主義を優先して1930~34年までに5次にわたる掃共戦(共産党との戦闘)を行ったが、共産党は長征(共産党の中心地であった江西省瑞金を放棄し、撤退したこと)を行ったので共産党を亡ぼすには至らなかった。36年には抗日戦での共産党との共闘に強く反対していた蒋介石が監禁され(西安事件)、これが国民党と共産党の接近をもたらし、後の第二次国共合作につながった。



国共合作とは

- 国共合作は第一次と第二次とがあり、それぞれ別の目的のために行われた。
- 第一次国共合作は各地に存在する軍閥と中華民国政府に対抗する共同戦線というものであった。中国共産党員が個人として国民党に加入することもあった。しかし25年に孫文が死亡し、蒋介石が国民党の実権を握ると上海クーデターなどもあり、27年7月13日に共産党側が国共合作の終了を宣言して国共内戦に突入した。
- 第二次国共合作は抗日戦で協力するというもので、両方の軍が日本軍と戦闘を行った。



国共内戦について

- 国共内戦は欧米の圧力などによって蒋介石が反共主義に変わり、上海クーデターの後第一次国共合作が終了して、1927年～第二次国共合作まで続いた共産党と国民党の内戦、それに加え日中戦争が終結した後の1946～1949年までの内戦のことを指す。
特に、1946～1949年まで続いた内戦は現在の台湾問題にもつながっている。



台湾問題(1)

- 台湾問題というと中共と国民党の問題というふうに思うかもしれないが、大陸から逃れてきた国民党(外省人)と台湾原住民(本省人)との間で起こった問題もある。

1945年に日本が敗戦した後の台湾には、連合国軍の委託を受けて日本軍の武装解除を行うために大陸から蒋介石率いる中国国民党政府の官僚や軍人が進駐し行政を引き継いだ。最初は多くの本省人が台湾の「祖国復帰」を喜び、中国大陸から来た国民党政府の官僚や軍人らを歓迎したが、やがて彼らの腐敗や犯罪を犯す者が多いことに驚き、失望した。

日本の統治は厳しい同化政策などもあったが不正は少なかったのも、役人の腐敗、治安の悪化に対して不満が高まっていた。当時の本省人は、「犬が去って、豚が来た」(犬[日本人]はうるさいが役に立つ、しかし豚[国民党]は貪り食うだけだ)と言っていたそうだ



- さらに蒋介石は、二・二八事件における数々の虐殺行為や、戒厳令を敷き、知識人や左翼分子を徹底的に弾圧して支配を行ったため、(特に本省人の間には)根強い拒否反応を持つ者が多い。



台湾問題(2)

- 次に中共と国民党の問題について解説する。

国民党が内戦に敗れ台湾島に逃れたことが、現在の台湾問題の発端となっている。

現在、中華人民共和国は”一つの中国”(、中国大陸、マカオ、香港、台湾は不可分の中華民族の国家「中国」でなければならないとするイデオロギーおよびそれに基づく政策的立場)を主張している。

一方で、国民政府は台湾移転後も、自分たちが「中国を代表する正当な国家」としての立場を継承する立場にあることを主張した。国民政府が台湾地域のみを統治することを内戦中の一時的な措置とした上で、台湾を含めた全中国の領有権を主張してきた。また、自由地区(台湾)のみによる選挙の実施は全中国の代表性を損なうと主張し、民主化運動を弾圧した。



- しかし、1990年に李登輝が中華民国総統に就任すると、91年5月に戒厳令を解除し、さらに中華民国憲法を改正、これを機に民主化が進んでいくことになる。96年には、史上初めての正副総統の直接民選選挙が行われ民主化が完成したといえるのではないだろうか。
- 現在どちらも自分たちが正当な”一つの中国”の政府であると主張しているが、台湾側が歩み寄りを見せているところもある。



今後の中国と台湾の関係

- 今年の1月16日に行われた中華民国総統選挙で、選挙の結果、民進党の蔡英文が国民党の朱立倫、親民党の宋楚瑜を大差で破り当選を果たした。民進党は国民党と違い台湾は独立すべきだという考えなので、いままで”一つの中国”を認めていた国民党の時代に築いた中国との関係がどうなるか、ということに注目して見ていくことが必要になるだろう。

